

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

○デジタル革新をきっかけに第5段階の新たな世界(Society5.0)への変革が必要な今、スマートシティを加速させていく必要がある。また、国連においても持続可能な社会(SDGs)への転換が求められている。そこで本市では、平成30年6月に、SDGs未来都市に選定されたことを受け、同年8月に策定した「SDGs未来都市計画」において、宇都市のまちづくりの基礎として地域に受け継がれてきた宇部方式の精神である「共存同栄・協同一致」を基調に、多様な主体の連携と、地域の「人財」の育成・活躍促進を図るとともに、ICT、IoTを有効に活用したデジタル革命を産業や地域づくりで積極的に展開していくことで、持続可能なまちづくりを目指すこととしている。

○都市のスプロール化、市街地の低密度化に歯止めをかけ、市民の誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、現在、本市が策定している「宇都市立地適正化計画」では、多極ネットワーク型コンパクトシティの形成と人々の暮らしを支える地域支え合い包括ケアシステムを連動させることとしている。それによって、にぎわい・安心・利便性を高め、多様な世代がにぎわう魅力的な生活の実現を図ることとしている。

特に、中心市街地については、これまで蓄積してきた都市のポテンシャルを活かして、多様な世代がにぎわう魅力的で安心して暮らせる利便性の高い生活を実現する。

○市の東西を走る宇部線を鉄道からBRTへ転換するなど利便性の高い公共交通網を形成する。また、主要な交通結節点には移動が困難な高齢者の移動手段として、パーソナルモビリティやグリーンスローモビリティなどを導入し、買い物や通院等の日常生活の利便性向上を図るほか、魅力とにぎわいを再生させたまちなかへの外出を促し、健康長寿で生き甲斐のある健幸都市を実現する。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>○人口減少や少子高齢化が進行するとともに、大型ショッピングセンターの郊外進出、さらに百貨店やスーパーの撤退により中心市街地が空洞化し、10年間で平日の歩行者通行量が約4割減少し、まちなかの人通りが少なく閑散としている。このため、まちなか(中心市街地)の都市としての拠点性を高め、市の顔としてふさわしいにぎわいと活力の再生が必要である。</p>	(オ)
<p>○多極ネットワーク型のまちづくりを進めるとともに、人の移動の課題も克服するために次世代交通システムの実現に取り組む必要がある。また、オフィスや病院、官公庁などが立地する中心市街地では、移動が困難な高齢者の移動手段を補完するパーソナルモビリティなどの導入により、歩いて暮らせるまちづくりの推進が必要である。</p>	(ア)
<p>○自動車依存のまちづくりを進めた結果、公共交通が発展している大都市と比較して明らかに生活習慣病罹患率が高い。さらに高齢化の進展が早く、これから5年間で後期高齢者が急増し、虚弱な住民が増加する見込みである。このため、このまちに住むと自然と健康になる都市環境整備や高齢者をはじめ多数の住民が効果を出せる健康対策が必要である。</p> <p>人口減少と高齢化が進み、労働力がさらに減少する。地方における労働力を確保するためにも、高齢になっても生涯現役で働き続けられ、健康状態を維持する仕組みを自治体は構築する必要がある。</p>	(カ)

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

- スマートライトシステム(カメラ画像解析、人流解析、Wi-Fi基地局)
- パーソナルモビリティのナビゲートシステム
- グリーンスローモビリティの自動運転化
- 中心市街地での施設、イベント、サービスの情報や健康増進のためなどのスマートフォン向け情報配信アプリ

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

○まちなかのにぎわい再生

中心市街地のにぎわい再生のため、現在ある街路灯及び公園などの外灯をスマートライト化(ネットワークLED・Wi-Fi基地局・ネットワークカメラ・センサー)することにより省電力化を図るとともに、Wi-Fi通信環境の整備、ネットワークカメラ等から取得したデータを共通プラットフォームに蓄積し、これらの情報からイベント等の効果、人の移動分布などを分析し、空き店舗等を活用した新規出店や都市機能施設の誘導など、様々な分野での活用を可能にする。

また、スマートフォンのアプリ等を利用して中心市街地の生活情報、施設情報、イベント情報、割引サービスなど、満足度の高いサービスを提供する。これらにより、商業の活性化やにぎわい創出につなげる。

○次世代交通システムの実現と歩いて暮らせるまちづくり

宇部市では、住み続けられるまちづくりを実現するため多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換を進めている。多極ネットワーク型のまちづくりの実現に向けて、移動の課題をクリアするための次世代型交通の導入が必要である。そのため、広域の幹線軸となるBRTなどの次世代交通システムの導入をにらんだ検討を行うとともに、自宅と幹線をつなぐパーソナルモビリティ導入の実証と一部導入を進める。特に中心市街地内の移動を補完するため、パーソナルモビリティのシェアリングやグリーンスローモビリティなどの導入により、高齢者の移動手段の充実を図り、アプリのナビゲーションを利用して買い物や散策など、歩行を促す仕掛けづくりを行い、回遊性の向上を図る。また、将来的には、自動運転化されたグリーンスローモビリティをBRTを補完するワンマイルモビリティとして活用する。

○スマートウエルネスシティの実現

科学的根拠に基づくインセンティブ付ヘルスケアサービス、生活習慣病予防サービスを提供するスマートウエルネスシティの取組を進めるため、グリーンスローモビリティなどにより、まちなかへの人の集客を図り、さらに、まちなか花回廊事業により歩いて楽しめる快適な歩行空間づくりを行う。また、スマートフォンなどのIoT機器による健康情報配信アプリ(ポイント付与)の利用を促進することで更なる住民の健康増進を図る。

(5) その他

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総合戦略局 コンパクトシティ・共生型包括ケア 推進グループ	中村 大吾 大木 公明	0836-34-8484 0836-34-8153	c-city@city.ube.lg.jp